



大学ボランティアセンター 職員セミナー2025

オンライン
Zoom開催

不確実な時代を生き抜くために 大学ボランティアセンターは何ができるのか

18歳人口の急減で定員割れに陥る大学が増え、経営難による閉校や統廃合など事例も増えていきます。一方で、多様な背景や特性を持つ学生への進学は増えており、大学には教育上の様々な配慮も求められています。また、地域社会に目を転ずると、人口減少や高齢化など影響などから、地域活動の担い手や働き手も不足しており、地域の様々な取り組みに大学や学生の参加や協力を期待する声も高まっています。学生によるボランティア活動は、こうした地域社会の課題解決に貢献することはもちろん、学生にとってもVUCA(不安定で不確実性、将来の予測が困難な状況)の時代を生き抜くためのよい学びや成長の機会となるでしょう。

今回のセミナーでは、こうした大学を取り巻く情勢や地域社会の期待に対して、学生のボランティア活動を支援する立場から何ができるのかを、様々な視点から考える機会とします。

開催日

9/16(火) 9:30~12:30
18(木)13:30~16:50

定員

各日40名程度

対象

大学ボランティアセンター、サービスラーニングセンター、地域連携センターなど学生・大学の社会貢献活動を推進する部署、プログラムの・運営、実践に関わる教職員／開設を検討している教職員／支援を担当されている大学教職員／開設や運営を支援している学外の中間支援組織の方

参加費

9/16(火)基礎セミナー 4,400円
9/18(木)実践セミナー 4,400円
(各日、JVCA正・準会員は3,960円)

申込



9/16(火)9:30~12:30
基礎セミナー

学生がボランティア活動に参加する意義や、大学としてどのようにボランティア活動を支援すればいいのかなど、大学ボランティアセンターの運営に必要な基礎知識を学びます。また、学生ボランティアに対する地域の期待や学生を地域の施設や団体に送り出すにあたり留意しておきたいことなど、ボランティアコーディネーションのポイントについても理解を深めます。

また、後半では学内の人事異動や他職種からの転職など、ボランティア活動の支援を専門としてこなかった立場からボラセンで働くこととなった職員の体験談から、大学ボラセンにおける適応と能力形成について考えます。

大学ボランティアセンターの新任担当者のほか、今後、センターの設立を検討している大学、設立したばかりの大学の教職員の参加も歓迎します。

講師

大谷大学
社会学部長
赤澤 清孝さん



【講師プロフィール】

1974年兵庫県伊丹市生。阪神・淡路大震災をきっかけに翌年、学生有志できょうと学生ボランティアセンター(後のユースビジョン)を設立。学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組む。2013年より大谷大学教員として学生らと地域連携活動を展開。著書に『新・学生のためのボランティア論』(社福)大阪ボランティア協会、2025、共編著)等。

主催・問い合わせ

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)
TEL 03-5225-1545 E-mail:jvca@jvca2001.org

参加にあたって

- ・分科会は第1希望から第2希望までお聞きし、調整します
- ・同じ所属から複数の方が参加される場合でも、一人ずつお申込みください
- ・グループワークを行いますので、一人一台の機器(PC等)でご参加ください

＜全体会＞13:30～14:10

「多様な人の参加を支援する インクルーシブボランティアの基礎知識」

ゲスト: 青山 織衣さん(大阪ボランティア協会 ボランティアコーディネーター)

＜分科会＞14:20～16:50 ※いずれか1つにご参加いただきます

【分科会1】大学ボラセンの現場から考えるインクルーシブボランティア

【分科会2】地域と学生を対等につなぐボランティアコーディネーション

～地域とのつながりを可視化して、コーディネーションを考える

【分科会3】限られたリソースの中でどんなプログラムを企画するのか？

～センター主催のプログラムづくりのための指針を探ろう！

分科会1 大学ボラセンの現場から考えるインクルーシブボランティア

大学ボランティアセンターとして、ボランティア活動を希望する全ての学生を現場へとつないでいきたいところですが、実際はそう簡単ではありません。相談対応する中には、何らかの個別的な支援を必要とする学生への対応を求められることもあります。簡単に参加できる活動が見つからない場合や、活動につながった場合でもトラブルを起こしてしまうこともあります。配慮が必要な学生から活動を希望する相談をされたとき、どのような視点が必要でしょうか？この分科会では、大学ボラセンの現場からインクルーシブボランティアを考えたいと思います。みなさんの日々の実践を持ち寄って、現場での実践へ活かすためのヒントを持ち帰りましょう。

コメンテーター : 川田 虎男さん(埼玉県立大学社会福祉子ども学科准教授/聖学院大学ボランティア活動支援センターアドバイザー)
戸田 千登美さん(まちの縁側育みプロジェクトながの)

進行・事例提供: 秋田 有加里さん(愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター コーディネーター)
芦澤 弘子さん(聖学院大学ボランティア活動支援センター コーディネーター)
竹田 純子さん(龍谷大学ボランティア・NPO活動センター コーディネーター)

分科会2 学生と地域の対等な関係を育むために私たちができることは？ ～地域とのつながりを可視化して、コーディネーションを考える

地域から学生に参加してほしいという要望は多数届きますが、ボランティアらしい価値を大切にしながら、活動と学生をつなぐためにはどのようなアプローチをするかという悩みは尽きないのではないのでしょうか。この分科会では、「社会関係図」という手法を用いて、自身の所属組織が持っているつながりを可視化して、地域団体と学生をつなぐコーディネーションを考えます。また、募集情報を受け付ける際に地域団体とどのようなコミュニケーションをとっているか、資料やフォーマット等をもとに、ねらいや意図についても共有し合います。自組織のつながりと取り組みを見直し、他組織の事例からヒントを得て、自組織での具体的なアプローチを考えるきっかけになればと思います。

進行 : 上條 直美さん(フェリス女学院大学ボランティアセンター コーディネーター)
事例提供 : 岡 秀和さん(関西学院大学ボランティア活動支援センター コーディネーター)
山崎 智文さん(京都産業大学ボランティアセンター コーディネーター)

分科会3 限られたリソースの中でどんなプログラムを企画するのか？ ～センター主催のプログラムづくりのための指針を探ろう！

大学ボランティアセンターでは、事業の企画や運営に際して、「何を」「誰に向けて」「どこまでするか」など、コーディネーターに大きな裁量が与えられているケースが多いようです。自分の責任と判断で自由に組み立てることはやりがいもありますが、その一方で、相談できる人がいなかったり、学生、地域、大学、それぞれに異なるニーズや関心があるなかで、何を優先してプログラムを作ればよいのか迷ったり、系統立てて考えることに難しさを感じる場面も多いのではないのでしょうか。この分科会では、限られたリソースの中でセンター主催プログラムを作る際に指針となるものは何かを参加者の皆さんと考えていきます。

進行 : 赤澤 清孝さん(大谷大学社会学部長 社会学部コミュニティデザイン学科准教授)
話題提供 : 開澤 裕美さん(中央大学ボランティアセンター コーディネーター)
水谷 耕平さん(青山学院大学シビックエンゲージメントセンター コーディネーター)

【企画・運営】大学ボランティアセンター職員セミナー2025実行委員会

委員: 赤澤清孝(大谷大学)、秋田有加里(愛知淑徳大学)、芦澤弘子(聖学院大学)、岡秀和(関西学院大学)、開澤裕美(中央大学)、上條直美(フェリス女学院大学)、竹田純子(龍谷大学)、水谷耕平(青山学院大学)、山崎智文(京都産業大学)